

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
国際言語文化学部	英語英文学科(※1)	夜・通信	34	/	29	63	13	
	英語英文学科(※2)	夜・通信	32		29	61	13	
	国際日本文化学科(※1)	夜・通信	34		29	63	13	
	国際日本文化学科(※2)	夜・通信	32		29	61	13	
現代人間学部(※3)	福祉生活デザイン学科	夜・通信	34	4	116	154	13	
	心理学科	夜・通信			78	116	13	
	こども教育学科幼稚園教員・保育士コース	夜・通信			98	136	13	
	こども教育学科幼稚園・小学校教員コース	夜・通信			116	154	13	
	こども教育学科小学校・特別支援学校教員コース	夜・通信			98	136	13	
生活福祉文化学部(※4)	生活福祉文化学科	夜・通信	27	/	101	128	13	
心理学部(※4)	心理学科現代心理専攻	夜・通信			49	76	13	
	心理学科学校心理専攻	夜・通信			88	115	13	
	心理学科臨床心理専攻	夜・通信	47	74	13			
(備考)								
※1=平成29年度以後入学者 ※2=平成28年度以前入学者								
※3=平成29年度設置 ※4=平成29年度以降募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<http://ann.notredame.ac.jp/instsec/jitsumuka.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/summary/boardmember2019.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/summary/boardmember2019.pdf</a></p>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常 勤	現学校法人理事長	2018.12.1 ～ 2020.3.31	理事長補佐 経営計画策定
非常勤	現信用金庫理事長	2017.12.24 ～ 2020.12.23	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現学校法人理事	2019.3.26 ～ 2021.5.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現私立大学教授	2017.12.24 ～ 2020.12.23	組織運営体制への チェック機能
非常勤	現修道士	2017.11.14 ～ 2020.5.31	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元企業会長	2017.4.1 ～ 2020.3.31	財務担当
非常勤	現私立大学教授	2017.12.24 ～ 2020.12.23	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では授業計画書(シラバス)を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。2019年度からはスマートフォンでの閲覧にも対応し、学習支援システムとも連携させて、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。</p> <p>シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。</p> <p>10月下旬 シラバス作成に関する説明会の開催</p> <p>11月中旬 担当教員にシラバス入稿依頼</p> <p>12月中旬 教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ</p> <p>12月下旬～翌年1月末 シラバスチェック(指摘・修正の期間を含む。)</p> <p>2月 シラバス修正・確認作業完了</p> <p>3月中旬 インターネット上で公表</p> <p>各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。</p> <p>入稿完了後には、教務委員会の委員(各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員)により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。</p> <p>全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①講義コード(コースナンバー)②科目名③ND6(ディプロマ・ポリシーに定める6つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目4参照)④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥科目区分⑦配当学年⑧開講学期⑨単位⑩備考・前提科目⑪曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている(括弧内は記載にあたって留意を求めている点)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の教育目標【必須項目】 (ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述)</li> <li>・教育・学習の個別課題【必須項目】 (科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述)</li> <li>・ルーブリック【任意項目】 (受講している科目でどのような力がつくかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押しすることを重視)</li> <li>・授業計画【必須項目】 (同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式</li> </ul>

- 等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載)
- ・教育・学習の方法【必須項目】  
(授業の実施方法(講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等)、学習の方法(授業で意識すべきことなど)、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載)
- ・準備学習の具体的な方法【必須項目】  
(予習・復習の方法などを具体的に指示)
- ・準備学習に必要な標準時間数(合計)【必須項目】  
(授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載)
- ・評価方法・評価基準【必須項目】  
(教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示)
- ・担当教員の実務経験  
(担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載)
- ・定期試験またはそれに替わるレポートの有無【必須項目】
- ・留意事項(受講条件等)
- ・テキスト/参考文献/参考 URL

授業計画書の公表方法 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  
<http://ann.notredame.ac.jp/instsec/>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)  
授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則(規則・規程等名称の大学名省略。以下同じ。)及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。  
本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」(学則第 14 条)ことを原則とし、試験は「定期試験及び定期試験以外の方法(授業時に行う平常試験、レポートその他第 10 条に定める評価方法)」(履修規程第 15 条)により行っている。  
具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」(履修規程第 10 条第 1 項)い、100 点満点で 60 点以上を合格とする(学則第 14 条)。成績評価の基準は下表のとおりである(履修規程第 10 条第 3 項・第 4 項)。

成績評点等	評価	評価(英語表記)
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし(試験欠席、出席時数不足等)	/	
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目(合格の場合)	合格	P

これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている(項目 1 参照)。記載にあたっては、「総合的に評価

<p>する」などの記載は原則として不可とし、「定期試験(50%)、小テスト・レポート(30%)、授業参加度(20%)」のように明確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の客観的な指標として、GPAを以下の方法で算出(小数点以下第3位を切捨て)し(履修規程第11条)、インターネット等により公開するほか、学生便覧等に記載して、直接ガイダンス等でも説明している。</p> <p><math>(4 \times \text{「秀」の修得単位数} + 3 \times \text{「優」の修得単位数} + 2 \times \text{「良」の修得単位数} + 1 \times \text{「可」の修得単位数}) \div (\text{総履修登録単位数})</math></p> <p>「認」「合格」の評価並びに卒業のために必要な単位とならない授業科目、学期途中で履修中止を届出た授業科目の評価はGPAの対象としない。再履修した場合は最新の成績だけを対象とする。</p> <p>なお、成績評価を適切に実施するための取組として、合格者の平均点を原則として「72点～78点」の範囲とすること、各授業科目の成績分布状況及びGPAを閲覧可とすることを、全学で申合せている(平成26年8月26日教務委員会「成績評価の厳格化について」)。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学Webサイトの下記のページにて公表している。</p> <p><a href="https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_06_1_01.pdf">https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_06_1_01.pdf</a></p> <p><a href="http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H29/binran/17e_ntbinran04.pdf">http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H29/binran/17e_ntbinran04.pdf</a>【平成29年度入学者】</p> <p><a href="http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H28/binran/28e_ntbinran05.pdf">http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H28/binran/28e_ntbinran05.pdf</a>【平成28年度入学者】</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成29年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4年間で育てたい力を「DP1.自分を育てる力」「DP2.知識・理解力」「DP3.言語力」「DP4.思考・解決力」「DP5.共生・協働する力」「DP6.創造・発信力」の6つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。</p> <p>ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。</p> <p>【全学共通部分】(平成29年度以後入学者)</p> <p>DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。</p> <p>DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養、それを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。</p> <p>DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。</p> <p>DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。</p>	

- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。
- DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。(専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。)

**【国際言語文化学部 英語英文学科】**

- DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会における自身の役割を獲得する力を身につけている。
- DP2. 英語圏の文化、社会、言語、コミュニケーションについての幅広い知識と深い理解を身につけ、これらを基に、国際社会でのインタラクション(相互作用)能力を涵養する素地を身につけている。
- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション(相互作用)できる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 異文化間で価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ(共同体)形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

**【国際言語文化学部 国際日本文化学科】**

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の2領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を人文学的観点から対応するための日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

**【現代人間学部 福祉生活デザイン学科】**

- DP1. (自己研鑽への態度) より良い生活や地域社会の実現に貢献するため、自己研鑽に努めることができる。
- DP1. (キャリア形成意欲) 職業生活や家庭生活、個人の生活を総合的にとらえ、ワークライフバランスを実現して充実した人生を築いていく力を身につけている。
- DP2. (知識・技能の習得) 衣食住や家族、福祉に関する幅広い知識・技能を身につけている。
- DP2. (課題認識と理解力) 家族や個人の暮らしに潜在する課題を理解し、社会的対応の

必要性を認識できる。

DP3. (言語活用力 (コミュニケーション力)) 相手の立場を考えながら、場に応じて適切なコミュニケーションができる力を身につけている。

DP4. (クリティカル・シンキング) 生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけている。

DP4. (問題解決能力) 身につけた衣食住や福祉の専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。

DP5. (共感する力) 他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。

DP5. (協働する力) 地域や福祉の現場で他職種と協働しながらかわる支援者としての技術を身につけている。

DP6. (情報収集・発信力) 自他の課題解決のための情報収集ができ、必要に応じて発信やプレゼンテーションができる。

DP6. (創造力) 身につけた知識や技術を活用し、生活をめぐる新たなこと、物を作り出していく力を身につけている。

#### 【現代人間学部 心理学科】

DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。

DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。

DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。

DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、病児・者、障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけている。

DP6. 専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力、および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

#### 【現代人間学部 こども教育学科】

DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。

DP2. 教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。

DP3. 教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。

DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。

DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

#### 【全学共通部分】(平成 28 年度入学者)

1. 全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広



い知識と教養を身につける。

2. 建学の精神に基づき、卒業時までには身につけるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3. 人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4. 4年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5. 大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

#### 【生活福祉文化学部 生活福祉文化学科】

1. 文化的な視点を背景に「生活者を支援する人材」として必要な生活と福祉の専門的な知識、技能、技術などを身につけ、応用できる。
2. 現代社会における諸問題、とりわけ人の暮らしと福祉に関する諸問題に関心を持ち、理論と実践を結びつけた主体的解決能力を身につけ、社会の要請に応じた対人援助能力、問題解決能力をもつ。

#### 【心理学部 心理学科】

1. 心理学に関する基礎力と応用力を具体的に活用しながら、日常生活における人間の行動や心理的な諸問題を予測し理解できるような科学的な思考力及び判断力を修得している。
2. 現代社会における価値観の多様性と異文化間の種々の問題に心理学的に対処し、情報網を適宜に活用することによって、文化や価値観を超えた人の心の問題にグローバルな視野から貢献できる。
3. 学際的な領域を含む心理学の基礎理論および方法・技能を基盤に、自ら問題意識をもったテーマを主体的に探求できる。
4. 心理学的な知識を基盤に多様性のある柔軟な思考力を通して、自己実現を果たすことができる。
5. 地域社会とのコミュニケーションを図り、心理的な課題に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって社会に広く貢献できる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに定める力が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

平成 29 年度以後入学者の卒業の要件は、4 年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計 124 単位以上（自由科目の単位を含まない。）を修得することとしている（履修規程第 5 条）。

#### ○国際言語文化学部 英語英文学科

共通教育科目	20 単位以上
専門教育科目	88 単位以上
学際教育科目	0～16 単位

- 国際言語文化学部 国際日本文化学科
  - 共通教育科目 26 単位以上
  - 専門教育科目 72 単位以上
  - 学際教育科目 0～26 単位
- 現代人間学部 福祉生活デザイン学科
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 学部共通科目 2 単位以上
  - 専門教育科目 84 単位以上
  - 学際教育科目 0～14 単位
- 現代人間学部 心理学科
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 学部共通科目 2 単位以上
  - 専門教育科目 84 単位以上
  - 学際教育科目 0～14 単位
- 現代人間学部 こども教育学科
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 学部共通科目 2 単位以上
  - 専門教育科目 84 単位以上
  - 学際教育科目 0～14 単位

平成 28 年度入学者の卒業の要件は、4 年以上本学に在学し、授業科目を次のとおり履修して、合計 124 単位以上を修得することとしている（平成 29 年 1 月 17 日改正前の学則第 15 条）。

- 国際言語文化学部 英語英文学科
  - 共通教育科目 16 単位以上
  - 専門教育科目 88 単位以上
  - 学際教育科目 0～20 単位
- 国際言語文化学部 国際日本文化学科
  - 共通教育科目 26 単位以上
  - 専門教育科目 72 単位以上
  - 学際教育科目 0～26 単位
- 生活福祉文化学部 生活福祉文化学科
  - 共通教育科目 22 単位以上
  - 専門教育科目 82 単位以上
  - 学際教育科目 0～20 単位
- 心理学部 心理学科 現代心理専攻
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 専門教育科目 80 単位以上
  - 学際教育科目 0～20 単位
- 心理学部 心理学科 学校心理専攻
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 専門教育科目 86 単位以上
  - 学際教育科目 0～14 単位
- 心理学部 心理学科 臨床心理専攻
  - 共通教育科目 24 単位以上
  - 専門教育科目 86 単位以上
  - 学際教育科目 0～14 単位

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html">https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html</a> <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_06_1_02.pdf">https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_06_1_02.pdf</a>
----------------------	--

様式第 2 号の 4 - ①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第 2 号の 4 - ②を用いること。

学校名	京都ノートルダム女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム女学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf</a>
財産目録	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf</a>
事業報告書	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30report.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30report.pdf</a>
監事による監査報告 (書)	大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf">http://hojin.notredame.ac.jp/zaimu/h30fp.pdf</a>

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 「〇〇年度事業計画書」 対象年度: 平成 26 年度～2019 (平成 31) 年度)
公表方法: 大学 Web サイトの下記のページにて毎年公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/financial.html#sec_02">https://www.notredame.ac.jp/about/financial.html#sec_02</a>
中長期計画 (名称: 「京都ノートルダム女子大学中期目標・中期計画」 対象年度: 2019 年度～2021 年度 )
公表方法: 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/financial/2019-tyukikeikaku.pdf">https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/financial/2019-tyukikeikaku.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/self_accreditation.html">https://www.notredame.ac.jp/about/self_accreditation.html</a>
---

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法: 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/accreditation.html">https://www.notredame.ac.jp/about/accreditation.html</a>
---

### (3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

#### ①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際言語文化学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html">https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html</a> ）
（概要） 本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。 国際言語文化学部は、言語・歴史・文学・思想・芸術・倫理・宗教など、人々の生活形成の様式と内容の総体である「文化」という視点から、「人間」存在の意味やその営為のありさまを学際的に学び、文化の多様性を理解し、異文化に対する寛容な国際感覚を身につけ、幅広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html">https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html</a> ）
（概要）【該当部分再掲】 本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成 29 年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。 ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。  【全学共通部分】 DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。 DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養、それを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。 DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。 DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。 DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。 DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）  【国際言語文化学部 英語英文学科】 DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会における自身の役割を獲得する力を身につけている。 DP2. 英語圏の文化、社会、言語、コミュニケーションについての幅広い知識と深い理解を身につけ、これらを基に、国際社会でのインタラクション（相互作用）能力を涵養する素地を身につけている。

- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）でできる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 異文化間で価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ（共同体）形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

**【国際言語文化学部 国際日本文化学科】**

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の2領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を人文学的観点から対応するための日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上（自由科目の単位を含まない。）を修得することとしている（履修規程第5条）。

- 国際言語文化学部 英語英文学科
  - 共通教育科目 20 単位以上
  - 専門教育科目 88 単位以上
  - 学際教育科目 0～16 単位
- 国際言語文化学部 国際日本文化学科
  - 共通教育科目 26 単位以上
  - 専門教育科目 72 単位以上
  - 学際教育科目 0～26 単位

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針  (公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html">https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html</a>)</p>
<p>(概要)  教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針  (公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolicy/">https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolicy/</a>、入学試験要項、学生便覧など)</p>
<p>(概要)  卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、全学及び各学部学科において入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を設定し、「ND6」に沿って入学者に期待する能力と選考方法、入学までに求める学習経験について明記している。  英語英文学科では、英語力と英語圏文化・社会への関心を持ち、他者とのコミュニケーションに努めていることを受け入れ方針とし、入学までに求める学習経験を言語4技能の学習と実践、コミュニケーション、現代社会や歴史地理への関心、理系の科目を通して論理力などを養っておくこととしている。  国際日本文化学科では、国語力とともに日本文化・世界の文化や諸言語への関心、他者とのコミュニケーション力を持ち、ユニークな発想で文化や言語について社会へ発信することに意欲があることを受け入れ方針とし、入学までに求める学習経験を高等学校教育で必修とされている外国語、国語、公民、地理歴史の他、芸術・情報の知識や能力を高めておくこと等としている。</p>
<p>学部等名 現代人間学部</p>
<p>教育研究上の目的  (公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html">https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html</a>)</p>
<p>(概要)  本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。  現代人間学部は、人間やその生活、社会、自然に対する総合的な理解に基づく実践的な能力を身につけた人材を養成するため、学際的な学びを深め、専門知識の向上に相乗効果を発揮させた総合的な教育研究を行うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針  (公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html">https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html</a>)</p>

**（概要） 【該当部分再掲】**

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成 29 年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

**【全学共通部分】**

- DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。
- DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養、それを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。
- DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）

**【現代人間学部 福祉生活デザイン学科】**

- DP1. （自己研鑽への態度）より良い生活や地域社会の実現に貢献するため、自己研鑽に努めることができる。
- DP1. （キャリア形成意欲）職業生活や家庭生活、個人の生活を総合的にとらえ、ワークライフバランスを実現して充実した人生を築いていく力を身につけている。
- DP2. （知識・技能の習得）衣食住や家族、福祉に関する幅広い知識・技能を身につけている。
- DP2. （課題認識と理解力）家族や個人の暮らしに潜在する課題を理解し、社会的対応の必要性を認識できる。
- DP3. （言語活用力（コミュニケーション力））相手の立場を考えながら、場に応じて適切なコミュニケーションができる力を身につけている。
- DP4. （クリティカル・シンキング）生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけている。
- DP4. （問題解決能力）身につけた衣食住や福祉の専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。
- DP5. （共感する力）他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。
- DP5. （協働する力）地域や福祉の現場で他職種と協働しながらかかわる支援者としての技術を身につけている。
- DP6. （情報収集・発信力）自他の課題解決のための情報収集ができ、必要に応じて発信やプレゼンテーションができる。
- DP6. （創造力）身につけた知識や技術を活用し、生活をめぐる新たなこと、物を作り出していく力を身につけている。



**【現代人間学部 心理学科】**

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、病児・者、障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけている。
- DP6. 専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力、および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

**【現代人間学部 こども教育学科】**

- DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。
- DP2. 教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としないこどもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。
- DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよいこどもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。
- DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに沿った6つの力「ND6」が獲得できるように配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問により評価し、学科の合議により厳格に可否を判定することとしている。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、次の区分により授業科目を履修して、合計124単位以上（自由科目の単位を含まない。）を修得することとしている（履修規程第5条）。

○現代人間学部 福祉生活デザイン学科

共通教育科目	24 単位以上
学部共通科目	2 単位以上
専門教育科目	84 単位以上
学際教育科目	0～14 単位

<p>○現代人間学部 心理学科</p> <p>共通教育科目 24 単位以上</p> <p>学部共通科目 2 単位以上</p> <p>専門教育科目 84 単位以上</p> <p>学際教育科目 0～14 単位</p> <p>○現代人間学部 こども教育学科</p> <p>共通教育科目 24 単位以上</p> <p>学部共通科目 2 単位以上</p> <p>専門教育科目 84 単位以上</p> <p>学際教育科目 0～14 単位</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html">https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p>教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している6つの力「ND6」を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolicy/">https://www.notredame.ac.jp/jukensei/admission/admissionpolicy/</a>、入学試験要項、学生便覧など)</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、全学及び各学部学科において入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を設定し、「ND6」に沿って入学者に期待する能力と選考方法、入学までに求める学習経験について明記している。</p> <p>福祉生活デザイン学科は、入学者に求める能力として基礎学力とともに、生活(衣食住)・福祉への関心や知識を有し、自らの主体性を築き社会へ貢献する意欲と協調性、自らの思考を発信し行動する意欲を有することを掲げ、入学までに求める学習経験として課外活動などでの実践的な体験をすることとしている。</p> <p>心理学科は、入学者に期待する能力として、豊かな人間性と他者理解と奉仕の精神を備え、心理学への関心・興味を持ち、あらゆる事象について論理的に考え解決策を追求する熱意や心理的諸問題の解決と支援に貢献したいと考える者とし、入学者に求める学習経験は、国語・英語を通じたコミュニケーション力の育成、社会科目において問題意識の形成と解決方法を考える力、課外活動による実行力、理数系科目を通して客観的視野を形成することを掲げている。</p> <p>こども教育学科は、保育・教育に関連する知識・技能の習得に努め良好な人間関係を築くことができ、一人ひとりの個性に応じた対応を心がけ、問題を解決する意欲を持つ者を受け入れる学生像とし、求める学習経験を高校卒業時までの基礎的な学力の習得、多くの人と関わる経験の中で自分の考えを伝え相手を理解する力を養うこと、他者と協力しながら課題を見つけ問題解決する経験としている。</p>
<p>学部等名 生活福祉文化学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html">https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html</a>)</p>

(概要)

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

生活福祉文化学部は、現代人の暮らしを生活文化と生活福祉の両面から複合的に学び、幅広い知識と科学的な洞察力を備えることで、豊かで質の高い生活を営み、さらに質の高い社会を創造する支援者として活躍できる人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>）

(概要) 【該当部分再掲】

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定め、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【全学共通部分】

1. 全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広い知識と教養を身につける。
2. 建学の精神に基づき、卒業時までには身につけるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3. 人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4. 4年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5. 大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

【生活福祉文化学部 生活福祉文化学科】

1. 文化的な視点を背景に「生活者を支援する人材」として必要な生活と福祉の専門的な知識、技能、技術などを身につけ、応用できる。
2. 現代社会における諸問題、とりわけ人の暮らしと福祉に関する諸問題に関心を持ち、理論と実践を結びつけた主体的解決能力を身につけ、社会の要請に応じた対人援助能力、問題解決能力をもつ。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに定める力が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、「卒業研究の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問により評価し、学科の合議により厳格に可否を判定している。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、授業科目を次のとおり履修して、合計 124 単位以上を修得することとしている（平成 29 年 1 月 17 日改正前の学則第 15 条）。

○生活福祉文化学部 生活福祉文化学科

共通教育科目	22 単位以上
専門教育科目	82 単位以上
学際教育科目	0～20 単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>)

（概要）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している力を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：平成 28 年度学生便覧に掲載。本学教務課 Web サイトにて公表している。

<http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H28/binran/28entbinran04.pdf>

その他平成 28 年度入学試験要項（冊子）など）

（概要）

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定し、入学を期待する学生像と入学者に求める学習経験について明記している。

具体的には、入学を期待する学生像として、自ら積極的に学ぶ意欲と能力を持ち、よりよい暮らしをデザインしていこうとする情熱や生活のスペシャリストを目指す意思を持つ人、暮らしの中の問題意識・社会貢献の視点・女性の視点を活かしたビジネスチャンスの創造に関心がある人、保育・高齢者福祉・障がい者福祉等の分野における福祉専門職を目指す意欲のある人等を掲げている。

入学者に求める学習経験としては、国語、英語、家庭に関する科目や現代社会の他、高等学校の専門学科、総合学科においては、「生活産業基礎」「社会福祉基礎」「食品製造」「マーケティング」「産業社会と人間」等の具体的科目名を挙げるとともに、教科・科目での学びだけでなく、「総合的な学習の時間」やボランティアを含む課外活動等実践的な活動経験も必要としている。

学部等名 心理学部

教育研究上の目的（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<https://www.notredame.ac.jp/about/founding.html>)

（概要）

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定に基づき、深く専門の学芸を教授研究するとともに、カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し、教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与することを目的とする。

心理学部は、心理学の基礎知識や技能を習得し、さらに現代社会の要請に応じた実践的問題解決能力を身につけた人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>)

（概要）【該当部分再掲】

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定め、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【全学共通部分】

1. 全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広い知識と教養を身につける。

2. 建学の精神に基づき、卒業時まで身に付けるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3. 人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4. 4年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5. 大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

【心理学部 心理学科】

1. 心理学に関する基礎力と応用力を具体的に活用しながら、日常生活における人間の行動や心理的な諸問題を予測し理解できるような科学的な思考力及び判断力を修得している。
2. 現代社会における価値観の多様性と異文化間の種々の問題に心理学的に対処し、情報網を適宜に活用することによって、文化や価値観を超えた人の心の問題にグローバルな視野から貢献できる。
3. 学際的な領域を含む心理学の基礎理論および方法・技能を基盤に、自ら問題意識をもったテーマを主体的に探求できる。
4. 心理学的な知識を基礎に多様性のある柔軟な思考力を通して、自己実現を果たすことができる。
5. 地域社会とのコミュニケーションを図り、心理的な課題に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって社会に広く貢献できる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに定める力が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、「卒業論文作成の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び口頭試問により評価し、学科の合議により厳格に合否を判定している。

卒業の要件は、4年以上本学に在学し、授業科目を次のとおり履修して、合計124単位以上を修得することとしている（平成29年1月17日改正前の学則第15条）。

- 心理学部 心理学科 現代心理専攻
  - 共通教育科目 24単位以上
  - 専門教育科目 80単位以上
  - 学際教育科目 0～20単位
- 心理学部 心理学科 学校心理専攻
  - 共通教育科目 24単位以上
  - 専門教育科目 86単位以上
  - 学際教育科目 0～14単位
- 心理学部 心理学科 臨床心理専攻
  - 共通教育科目 24単位以上
  - 専門教育科目 86単位以上
  - 学際教育科目 0～14単位

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<https://www.notredame.ac.jp/about/policy/faculty.html>)

<p>(概要)</p> <p>教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、三つの方針のうちディプロマ・ポリシーで設定している力を身につけるために必要な授業科目について、どのような内容の科目を、講義・演習・実習等のどの方法で、どの時期に配置して編成するかを具体的に記述している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：平成 28 年度学生便覧に掲載。本学教務課 Web サイトにて公表している。  <a href="http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H28/binran/28entbinran04.pdf">http://ann.notredame.ac.jp/instsec/pdf/H28/binran/28entbinran04.pdf</a>          その他平成 28 年度入学試験要項（冊子）など）</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）のもと、主体的に学び、研究を深める意欲のある入学者を受け入れるために、入学受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定し、入学を期待する学生像と入学者に求める学習経験について明記している。</p> <p>具体的には、入学を期待する学生像として、心理学に関心を持つ人、心理学の知識・技能を活かし実践的問題解決力や産業界で活躍できる力を身につけたい人、様々な事象や問題について論理的に考え解決策を追求する熱意のある人、人々が抱える心理的諸問題を解決し社会に寄与したい人、認定心理士・社会調査士等の心理学関係の資格や教諭免許（幼稚園及び小学校第一種）を取得しその職業に就きたい人を挙げている。</p> <p>入学までに求める学習経験については、国語や英語の学習を通し説明力やコミュニケーション力をつけること、社会（地理歴史・公民）の学習を通し現代社会や身の周りの出来事に関心と問題意識を持とともに課外活動等を通しその解決方法を考えることや実行していることが望まれるとし、その他、基礎的な数学（数学 I）や理科での学びを通し物事を客観的に捉える力をつけること等としている。</p>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_2019_02_1.pdf">https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/info/info_2019_02_1.pdf</a></p>
---

## ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
国際言語文化学部	—	12 人	10 人	4 人	0 人	0 人	26 人
現代人間学部	—	21 人	18 人	4 人	0 人	0 人	43 人
心理学部	—	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
生活福祉文化学部	—	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		95 人					95 人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		<p>公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。  「教員データベース」  <a href="https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/detabase.html">https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/detabase.html</a></p>					

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）
<p>本学はFD委員会のもとFDに取り組んでいる。</p> <p>2018（平成30）年度に実施したFDは以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部生を対象とした授業評価アンケート</li> <li>2. 大学院生を対象とした教育評価アンケート</li> <li>3. FD研修会（年2回）</li> <li>4. オープンクラスウィーク（年2回）</li> </ol> <p>本学のFDについての年ごとの報告は、下記Webページにて『FD報告書』として公表している。</p> <p><a href="https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/fd.html">https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/fd.html</a></p>

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際言語文化 学部	130人	143人	110%	570人	505人	88%	英語英文学科 5名 国際日本文化 学科 欠員の範 囲	8人
現代人間学部	240人	182人	75%	720人	486人	67%	欠員の範囲	5人
心理学部	—	—	—	168人	111人	66%	—	—
生活福祉文化 学部	—	—	—	105人	78人	74%	—	—
合計	370人	325人	87%	1563人	1180人	75%	5人	13人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間文化学部	88人 (100%)	1人 (1.1%)	72人 (81.8%)	15人 (17.1%)
心理学部	88人 (100%)	10人 (11.4%)	68人 (77.2%)	10人 (11.4%)
生活福祉文化 学部	59人 (100%)	0人 (0%)	49人 (83.0%)	10人 (17.0%)
合計	235人 (100%)	11人 (4.7%)	189人 (80.4%)	35人 (14.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
全日本空輸(株)、(株)京都銀行、(株)堀場アドバンスドテクノ、和歌山県庁、滋賀県教育委員会 ほか 京都ノートルダム女子大学大学院、関西大学大学院、兵庫教育大学大学院 ほか				
(備考) 人間文化学部は2019年度より国際言語文化学部に変更				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人間文化学部	103人 (100%)	79人 (76.7%)	17人 (16.5%)	7人 (6.8%)	0人 (%)
心理学部	96人 (100%)	80人 (83.3%)	5人 (5.2%)	11人 (11.5%)	0人 (%)
生活福祉文化 学部	60人 (100%)	54人 (90%)	1人 (1.7%)	5人 (8.3%)	0人 (%)
合計	259人 (100%)	213人 (82.2%)	23人 (8.9%)	23人 (8.9%)	0人 (%)
(備考) 人間文化学部は2019年度より国際言語文化学部に変更 心理学部・生活福祉文化学部は2017年度より募集停止し、現代人間学部に変更					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 【該当部分再掲】</p> <p>本学では授業計画（シラバス）を全学部統一様式で作成し、インターネット等により公表している。2019年度からはスマートフォンでの閲覧にも対応し、学習支援システムとも連携させて、学生が科目選択時だけでなく授業準備学習等にも活用しやすいように改善を図っている。</p> <p>シラバスは、例年概ね以下の過程を経て作成・公表している。</p> <p>10月下旬 シラバス作成に関する説明会の開催</p> <p>11月中旬 担当教員にシラバス入稿依頼</p> <p>12月中旬 教務委員会におけるシラバスチェック基準の打ち合わせ</p> <p>12月下旬～翌年1月末 シラバスチェック（指摘・修正の期間を含む。）</p> <p>2月 シラバス修正・確認作業完了</p> <p>3月中旬 インターネット上で公表</p> <p>各担当教員のシラバス作成に際しては、「シラバスの入稿について」「本学の基本教育理念の組み立てについて」など作成のためのガイドとなる資料を配付するほか、授業改善の一環として説明会を開催し、シラバス作成の考え方や前年度からの変更点・留意点等への理解を深めることとしている。</p> <p>入稿完了後には、教務委員会の委員（各学科等選出の教員、教育支援部長等の職員）により、当該科目の位置づけがカリキュラム・ポリシーに沿ったものであるか等について「シラバスチェック」を行う。</p> <p>全学部統一様式によるシラバスには、授業科目に関する情報として①講義コード（コースナンバー）②科目名③ND6（ディプロマ・ポリシーに定める6つの力のうち当該科目に最も関連する力を記載。項目4参照）④授業以外に必要な標準学修時間⑤担当教員名⑥科目区分⑦配当学年⑧開講学期⑨単位⑩備考・前提科目⑪曜日講時を記載した上で、担当教員が記載する事項として、以下の項目を設けている（括弧内は記載にあたって留意を求めている点）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の教育目標【必須項目】 （ディプロマ・ポリシーとの関連がわかるよう、学生が到達すべき水準等を具体的に測定可能な行動等で記述）</li> <li>・教育・学習の個別課題【必須項目】 （科目の教育目標に到達するために授業の中で取り上げる課題などを、授業終了後のイメージが具体的なものとなるように箇条書きで記述）</li> <li>・ルーブリック【任意項目】 （受講している科目でどのような力が付くかを学生が理解し、主体的に考えて学ぶように方向づけるため、学生が目標に向かって積極的に取り組むことを後押し</li> </ul>
--



<p>することを重視)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画【必須項目】            (同内容が連続している場合や各回の具体的な内容が不確定である場合も、原則として異なるトピックや観点等を含めて各回の授業内容を記載。オムニバス形式等、複数教員担当の場合は各回の担当者名も記載)</li> <li>・教育・学習の方法【必須項目】            (授業の実施方法(講義・演習・発表・ディスカッション・グループワーク等)、学習の方法(授業で意識すべきことなど)、授業で使用する教材などについて具体的に示し、試験・レポート等に対するフィードバックについても記載)</li> <li>・準備学習の具体的な方法【必須項目】            (予習・復習の方法などを具体的に指示)</li> <li>・準備学習に必要な標準時間数(合計)【必須項目】            (授業以外に必要な予習・復習等に要する時間の合計を標準時間数以内で記載)</li> <li>・評価方法・評価基準【必須項目】            (教育目標を基に成績評価の基準を適切に設定し、その内容を具体的に明示)</li> <li>・担当教員の実務経験            (担当科目の内容に関連した実務経験であることが読み取れるように記載)</li> <li>・定期試験またはそれに替わるレポートの有無【必須項目】</li> <li>・留意事項(受講条件等)</li> <li>・テキスト/参考文献/参考 URL</li> </ul>
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(学修成果の評価に係る取組の概要)【該当部分再掲】</p> <p>授業科目の成績評価及び単位の授与については、学則(大学名省略。以下同じ。)及び履修規程等の規定に基づき、厳格かつ適正に行っている。</p> <p>本学では「授業科目の履修は、単位制とし、履修した授業科目に対しては、試験の上、単位を与える」(学則第14条)ことを原則とし、試験は「定期試験及び定期試験以外の方法(授業時に行う平常試験、レポートその他第10条に定める評価方法)」(履修規程第15条)により行っている。</p> <p>具体の成績評価の方法は「筆記・口述試験、論文、レポート、実験、実習、実技及び授業参加度等を基に行」(履修規程第10条第1項)い、100点満点で60点以上を合格とする(学則第14条)。成績評価の基準は下表のとおりである(履修規程第10条第3項・第4項)。</p>		
成績評点等	評価	評価(英語表記)
90点以上	秀	A
80点～89点	優	B
70点～79点	良	C
60点～69点	可	D
本学学則第16条、第17条及び第17条の2の規定により、本学以外での学修を認定した授業科目	認	T
59点以下	不可	F
評価なし(試験欠席、出席時数不足等)	/	/
本学学則第14条第2項ただし書きの規定により100点を満点とする評価が難しいものとして別に定める授業科目(合格の場合)	合格	P
<p>これらの規定を踏まえ、個々の授業科目においては、シラバスに記載必須として「評価方法・評価基準」の項目を設け、当該授業科目の教育目標を基に適切に設定した基準を具体的に明示することとしている(上記1参照)。記載にあたっては、「総合的に評価する」などの記載は原則として不可とし、「定期試験(50%)、小テスト・レポート(30%)、授業参加度(20%)」のように明</p>		

確化している。また、単に出席したことだけをもって評価する「出席点」は認めていない。

(卒業の認定に係る取組の概要)

本学では、建学の理念・教育目的に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）をはじめとする「三つの方針」を定めている。平成 29 年度以後入学者のディプロマ・ポリシーについてはさらに、4 年間で育てたい力を「DP1. 自分を育てる力」「DP2. 知識・理解力」「DP3. 言語力」「DP4. 思考・解決力」「DP5. 共生・協働する力」「DP6. 創造・発信力」の 6 つの観点「ND6」に整理し、これに沿って、卒業時にどのような力が身につけているべきかを定めている。

ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学科等別に以下のように記述している。

【全学共通部分】（平成 29 年度以後入学者）

- DP1. キリスト教精神に基づいて他者と自分を尊ぶ全人的な「常識」と「良識」を備え、自由に自分の人生を選び取っていく自立・自律した女性として健康に生きていく態度を身につけている。
- DP2. 人間やその生活、社会、自然のすべてについての幅広い知識と教養、それを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。
- DP3. 国籍や言語の異なる人々と共に生きていくために必要な、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。
- DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、分析、情報処理を行い、批判的、論理的な思考によって解決しようとする力を身につけている。
- DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な力を身につけている。
- DP6. 総合的な学修経験を行って、実践的に、他者や社会に対して、自らの学修成果を発信することができる。（専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、学修成果をまとめ、創造的に発信することができる。）

【国際言語文化学部 英語英文学科】

- DP1. キリスト教精神に基づく共感能力と幅広い教養に支えられた女性としての自立心を備え、国際社会における自身の役割を獲得する力を身につけている。
- DP2. 英語圏の文化、社会、言語、コミュニケーションについての幅広い知識と深い理解を身につけ、これらを基に、国際社会でのインタラクション（相互作用）能力を涵養する素地を身につけている。
- DP3. 様々な国籍と文化背景の人々と、英語を介してインタラクション（相互作用）できる言語能力を身につけている。グローバル化社会で共生するための、異文化理解に基づいた社会的言語能力を身につけている。
- DP4. 現代社会、特に国際社会において直面する多種多様な情報問題、課題に対して、適切な情報選択、批判的分析、論理的かつ効果的な意思決定を行う力を身につけている。
- DP5. 異文化間で価値観が交錯する国際社会で他文化の人々と協働するにあたり、ステレオタイプや偏見、自己文化中心主義といった自己傾向を理解し、これを克服して、多文化コミュニティ（共同体）形成に貢献できる力を身につけている。
- DP6. 英語圏を中心とする国際社会における文化、社会、言語、コミュニケーションについて、その背景にある仕組みや問題を洞察することができ、これを分析・解決するための専門知識と方法論を身につけている。また、分析・解決策を社会やコミュニティに対して貢献できる形で発信する力を身につけている。

【国際言語文化学部 国際日本文化学科】

- DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、自立した女性として社会に貢献できる資質を身につけている。
- DP2. 「日本語日本文化」「国際文化」の 2 領域にわたる基礎知識、国際的な広い視野と教養をもち、深く考察できる技能を身につけている。
- DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を人文学的観点から対応するための日本語および

外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人文学分野の情報を収集・分析する技能と論理的な思考力を身につけている。

DP5. さまざまな他者と共生・協働するために必要な書き言葉・話し言葉の両面を使いこなす国語力および社会人として求められるプレゼンテーション能力を土台に、共生・協働する力を身につけている。

DP6. 学習経験と専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み新たな価値を創造する能力、諸問題に対して適切に判断・対処する力を身につけている。

#### 【現代人間学部 福祉生活デザイン学科】

DP1. (自己研鑽への態度) より良い生活や地域社会の実現に貢献するため、自己研鑽に努めることができる。

DP1. (キャリア形成意欲) 職業生活や家庭生活、個人の生活を総合的にとらえ、ワークライフバランスを実現して充実した人生を築いていく力を身につけている。

DP2. (知識・技能の習得) 衣食住や家族、福祉に関する幅広い知識・技能を身につけている。

DP2. (課題認識と理解力) 家族や個人の暮らしに潜在する課題を理解し、社会的対応の必要性を認識できる。

DP3. (言語活用力(コミュニケーション力)) 相手の立場を考えながら、場に応じて適切なコミュニケーションができる力を身につけている。

DP4. (クリティカル・シンキング) 生活のあり方や生活課題の本質を探り、より良い方向を見出す力を身につけている。

DP4. (問題解決能力) 身につけた衣食住や福祉の専門的な知識と技術を自他の生活課題を解決するために活用できる。

DP5. (共感する力) 他者に共感でき、生活困窮者に寄り添う態度が身につけている。

DP5. (協働する力) 地域や福祉の現場で他職種と協働しながらかかわる支援者としての技術を身につけている。

DP6. (情報収集・発信力) 自他の課題解決のための情報収集ができ、必要に応じて発信やプレゼンテーションができる。

DP6. (創造力) 身につけた知識や技術を活用し、生活をめぐる新たなこと、物を作り出していく力を身につけている。

#### 【現代人間学部 心理学科】

DP1. キリスト教精神に基づいて豊かな人間性と奉仕の精神を養い、社会の安寧と人々の幸福の実現に貢献できる態度を身につけている。

DP2. 心理学およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい事柄を理解する力を身につけている。

DP3. 多様化、複雑化する現代社会が抱える諸問題を心理学的視野から解決へと導くために、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP4. 現代社会のさまざまな課題に対して、人間の心と行動に関する情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。

DP5. 一人ひとりの人間をかけがえのない存在として尊び、病児・者、障がい児・者を含むさまざまな人々とコミュニケーションを図り、理解を深め、協働することができる実践力を身につけている。

DP6. 専門知識を基盤に、自ら立てたテーマに基づき研究に取り組み、得られた分析結果から新たな価値を創造する力、および心の諸問題に対して適切に判断し対処する力を身につけている。

#### 【現代人間学部 こども教育学科】

DP1. キリスト教精神に基づいた豊かな人間性と奉仕の精神を養うとともに、教育者として、職業的役割を自覚し、こどもの教育に貢献できる態度を身につけている。

DP2. 教育や保育、およびその関連領域についての基礎知識、およびそれを基にさらに新しい教育や保育に関する事柄を理解する力を身につけている。

DP3. 教育や保育領域のグローバル化、また、日本語を母国語としない子どもや家庭に対して、日本語および外国語でのコミュニケーションスキルと読み書き能力を身につけている。

DP4. 教育や保育に関するさまざまな課題に対して、情報を収集・分析する科学的技能と論理的思考力を身につけている。

DP5. 教育や保育場面で関わる全ての人たちと、よりよい子どもの成長を支えるために、共生・協働する力を身につけている。

DP6. 教育や保育に関する自らの疑問や課題に基づき研究に取り組み、客観的な分析を通して、教育や保育の諸問題について、適切に判断する力を身につけている。

#### 【全学共通部分】（平成 28 年度入学者）

1. 全人的な「常識」と「良識」を備えた上で、国際化・情報化の時代に対応し、幅広い知識と教養を身につける。
2. 建学の精神に基づき、卒業時まで身につけるべき社会人基礎能力として、「自分を育てる力」「共生・協働する力」「コミュニケーションする力」「創造発信する力」「思考・解決する力」「主体的に行動する力」を身につけている。
3. 人間やその生活、社会、自然のすべてに関心をもって自己涵養に努め、成果を自らの生活や社会に還元しようとする態度をもつ。
4. 4年間にわたる講義や演習、実習及び実践型授業での学びを通して獲得する幅広い知識を活用し、批判的、論理的に思考する力を身につける。
5. 大学での総合的な学習経験と専門知識を基盤に、特定の研究テーマに基づき卒業研究に取り組み、学修成果をまとめる。

#### 【生活福祉文化学部 生活福祉文化学科】

1. 文化的な視点を背景に「生活者を支援する人材」として必要な生活と福祉の専門的な知識、技能、技術などを身につけ、応用できる。
2. 現代社会における諸問題、とりわけ人の暮らしと福祉に関する諸問題に関心を持ち、理論と実践を結びつけた主体的解決能力を身につけ、社会の要請に応じた対人援助能力、問題解決能力をもつ。

#### 【心理学部 心理学科】

1. 心理学に関する基礎力と応用力を具体的に活用しながら、日常生活における人間の行動や心理的な諸問題を予測し理解できるような科学的な思考力及び判断力を修得している。
2. 現代社会における価値観の多様性と異文化間の種々の問題に心理学的に対処し、情報網を適宜に活用することによって、文化や価値観を超えた人の心の問題にグローバルな視野から貢献できる。
3. 学際的な領域を含む心理学の基礎理論および方法・技能を基盤に、自ら問題意識をもったテーマを主体的に探求できる。
4. 心理学的な知識を基礎に多様性のある柔軟な思考力を通して、自己実現を果たすことができる。
5. 地域社会とのコミュニケーションを図り、心理的な課題に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって社会に広く貢献できる。

卒業の認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに定める力が獲得できるよう配置された授業科目の単位修得状況を確認し、卒業要件を満たしていることを卒業判定教授会において厳正に審査する。

特にその集大成としての卒業研究は、学科によって細部は異なるが、スケジュール、提出する論文等の形式、内容、提出方法、評価基準その他について、各学科による「卒業研究の手引き」又は「卒業論文の手引き」で詳細に説明・指導した上で、提出された論文等を複数教員による査読及び

口頭試問又は公聴会により評価し、学科の合議により厳格に可否を判定することとしている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際言語文化学 部	英語英文学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	国際日本文化学 科	124 単位	有	46 単位 (年間)
現代人間学部	福祉生活デザイ ン学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	心理学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
	こども教育学科	124 単位	有	46 単位 (年間)
生活福祉文化学 部	生活福祉文化学 科	124 単位	有	48 単位 (年間)
心理学部	心理学科	124 単位	有	49 単位 (年間)
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/manzokudo/ir_2017.pdf">https://www.notredame.ac.jp/about/pdf/manzokudo/ir_2017.pdf</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 大学 Web サイトの下記のページにて公表している。 <a href="https://www.notredame.ac.jp/campuslife/campus/">https://www.notredame.ac.jp/campuslife/campus/</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部	全学科	750,000 円	280,000 円	380,000 円	その他の内訳 : 教育充実費 150,000 円 施設設備費 230,000 円 左記は第 1 年次の納入金額。 第 2 年次以降についても、入 学金を除き、原則として同額とす る。ただし、左記の額以外に、 ①第 4 年次に卒業費 33,000 円 を徴収する。②授業科目によ り、実習費等を徴収する場合が ある。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 担任制をとり、学生一人ひとりに対して学修や進路、学生生活全般の助言を行う指導教員を決めている。また、教員が決まった時間に学修相談に応じることができるオフィスアワーを設置している。入学後は、学業に専念することができ、安心して学生生活を送れるよう、大学独自の奨学金制度を数多く設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 習熟度に合わせて着実にキャリア形成ができるように、4 年間を通してきめ細かいサポートをおこなっている。豊富なガイダンスやセミナー、資格取得対策講座をはじめ、個別指導により、学生一人ひとりの強みを引き出し、それぞれが希望の未来に進めるようにサポートしている。〔実施している具体的な取組 : 就職・キャリアガイダンス、学内

業界研究セミナー、企業訪問バスツアー、就職ガイドブックの配付、キャリアアドバイザーの設置、キャリアサポーター（内定が決まった先輩に相談できる制度）、教員採用試験対策講座、公務員セミナー、福祉業界セミナー、就職試験対策講座など]

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生相談室では専門相談員が大学生活を送っていく上での悩みや不安などの相談に応じている。また、対人関係不安学生に対してのグループワーク活動も行っている。障害のある学生には「キャンパスサポート」として講義保障を中心としたさまざまな支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学 Web サイトの下記のページにて公表している。

<https://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/>